

2014年のマルメ研修に当院長の山下圭造は参加しましたが、私は参加が出来ず 次回がいつあるかも分からなかった為、とても残念な思いでございました。しかし思っていた以上に早く第4回のマルメ研修、さらに今回は衛生士のため ハンズオンもあるというお知らせを頂き、躊躇することなく参加を決めました。海外研修を開催することは言葉にできないくらい大変なことだと思います。2年後に企画して下さったことに心より感謝いたします。ありがとうございます。到着した夜に熊谷先生から今回の研修にあたり熱いメッセージを頂きました。そのお話しの中で私の心に強く残ったことが以下の4つのポイントです。

- ・歯科医療は哲学であること。システムを動かすには「哲学」が必要である。
- ・哲学を持っていなければ形を真似ても決して患者さんの真の利益には繋がらない。成功しない。
- ・グローバルスタンダードの感性を磨く。
- ・スウェーデンの哲学を感じてみる。

この熊谷先生のお話しをしっかりと心に刻み、研修に臨むことが出来たことは 研修期間中、モチベーション維持の大きな励みになりました。研修を終え私の心を大きく捉えたのは、日本では一医院で行われている予防まで含んだ 医療業務がスウェーデンは国ぐるみで行われている、ということでした。患者さんのデータ管理、エビデンスに基づいた治療、最小限の治療、迷ったら削らない、歯髄を守るためのステップワイズ・エキスカベーション法、学生のPBL教育、患者教育の重要性、フッ素、シュガーの取り方などを始めとし さらには20歳までは治療費は無料、それ以降はリスクに応じて年金額が決まる。などなど国を挙げて国民の健康、歯を守る「スウェーデン哲学」を実際に体感できたことは自分の大きな財産になりました。また日本国外に出て改めて自分を見つめ直したとき、日常のルーティンに埋もれてしまい 何が本当良いのか？正しいのか？という疑問の心を失いがちになり、総合的な判断ができなくなっているのではないかと感じました。やはり外から客観的に日本をみるということは自分にとって非常に有意義なことでした。日本で行われていることや歯科治療や予防は本当に世界に通用するグローバルスタンダードなのか？何ごとにおいても常に問題意識を持ち、広い視野を持ちたいと思いました。しかし一番悔やまれるのは、楽しみにしていたハンズオンを満足に学習できなかったことです。マネキン実習では各自でマネキンを行い、歯石の取れ具合を自己チェックしました。しかしこれはいつも日本で励行していることです。そこで一番見たかった事はシャスティーン先生が実際にハンドスケラを使い、マネキンをやる姿でした。シャスティーン先生の椅子の高さ、ユニットの高さ、ポジション、モーションレストの位置、などなど実際のハンドスケラの使いこなしなどを見られなかったことが一番の心残りです。質問した下顎の7番の遠心だけは実際にシャスティーン先生にやって頂き見ることが出来ました。全顎的に見たかったと思いました。次回のハンズオンの際はぜひ今回の不足分を取り入れて頂ければ、これから参加される皆様にもさらに有意義なものになると確信しています。いずれにせよ今回はこのような機会をつくって頂き、こころより感謝しております。今後は今回のスウェーデン・マルメ研

修を生かし、歯科先進国で吸収した「グローバルな視点」に基づき 患者さんの口腔を改善し、皆様により良い状態をキープし歯を守る大切さを伝えることが私の使命だと思っています。そして一人でも多くの方々が口のお口の健康を通し、笑いあふれる豊かな人生を送って頂ける様日々邁進していければ幸いです。 改めて今回は誠にありがとうございました。